

魅惑のスポット「セッコーラン」

みなさんこんにちは。気がつけばもう2月！もはや「あけましておめでとうございます」なんて言えなくなってしまった。この1月は中々に多忙でした。1月7日に3学期がスタートしたのですが、3週後の25日には運動会、その翌週の2月1日には日本人会春祭りで吹奏楽のステージ、そして今週6日には学年末テストとイベントが目白押し。そして中3担任として、日本各地で受験をしている家庭と連携しながら進路業務を進め、そしてその隙間に新年度に向けての仕事が入ってきてています。最後に家に戻ってきてからは、いよいよ帰任に向けての身辺整理。1日48時間あればいいのに…と土台無理なことを考えてしまいます。

そんな中一番計画を狂わせてくれているのが…やはり今猛威を振るっている「コロナウイルス」ですね。私の住んでいるヤンゴンでは、公式には患者が出ていないと言われています。中国からの国際便も全面封鎖し、国を挙げて全力でウイルスの侵入を食い止めているようですが、中国国境近くのミャンマー東北部では陸路で中国人がどんどん訪れているという噂も聞きます。その証拠(?)に、マスクの値段が1月初旬に1箱2,000ks(≈150円位)だったのが、現在40,000ks(≈3,030円位)！一気に20倍も価格が跳ね上がりました。中国人がミャンマーで買い占めたマスクを中国で転売しているというまことしやかな話が聞かれます。医療面がどうしても周辺諸国に劣るヤンゴン。一度ウイルスが入ってしまうと、一気に感染が広がることが考えられます。そういう点を踏まえて、今日日本で受験に臨んでいる生徒達も、試験の合間にヤンゴンに戻ることなく、ずっと日本に滞在しています。そのため、先述したように各家庭と進路関係の連絡調整を毎日のように行わなければならない状況となっています。何事もなく今の事態が落ち着くことを、そして私のクラスの子どもたちが無事受験を終えてヤンゴンに戻ってくるのを祈っています。

前段が長くなり大変失礼しました。今回ご紹介するのは、タイトルにある「セッコーラン」という場所です。ヤンゴンのダウンタウン地区は、イギリス統治下に開発された場所。そのため、縦断する道と横断する道が整備されていて、明確に区域分けされています。縦断する道は No.○ Street と番号がついています。その19番ストリートがセッコーラン(=ミャンマー語で「19番(セッコー)通り(ラン)」)と呼ばれる場所です。そこに何があるのかというと…所狭しと並ぶ串焼き屋の数々と、そこに一杯ひっかけにくる人の群れです。



昼間はただの通りなのですが、17時を過ぎた頃から続々と店が開店。すると人もどんどん集まり始め、席が足りなくなると通りにまでテーブルを出して客を入れます。客は店の前にずらっと並んだ串を「これと、これと…」といった感じで選ぶと店がそれを炭火焼きして、テーブルまで運んでくれます。それを肴に1杯70円のビールをぐいっと！というのがこちらのスタイル。19時を回ると老いも若きも男も女も、そして外国人もといった感じで、とても賑やかな場所になります。気になるお値段はというと…串が1本20円位。なのでたらふく飲み食いしても2,000円あればお釣りが来ます！夢のような場所なのですが…実はここチャイナタウンのど真ん中！なのでコロナ騒動が落ち着くまで行けません。とても残念です。

それではまた来月、こちらでの生活の様子を報告します。

